



信濃小中学校だより そよげわか竹

「そして伝説へ…」

平成23年度

信濃中学校としては、最後の入学生として迎えられた現在の九年生。入学当初は、新たな環境、新たなクラス、メイトの中で、とまどいや不安を抱えていた生徒もいたかもしれない。しかし、初の学年行事となる戸隠キャンプを通して、学年、クラスの団結が深まっていきました。ご飯はしっかりと炊けるかな？カレーはスープになってしまわないかな？と心配しながら、みんなで協力して作ったカレーライスの味は絶品でした。そして、冬には信濃小中学校開校に向けて、引越越し作業を経験しました。お世話になった旧校舎の教室や廊下の汚れを徹底的に磨き上げ、



平成24年度

旧校舎への感謝の気持ちを表しました。最後に旧音楽室にて、学年で記念撮影をしました。旧校舎との別れを惜しみながらも、新校舎での生活に向けて、期待に胸を膨らませていく姿がみられました。

この年から小中一貫校がスタートしました。生徒も職員も初めての経験。どんな生活が始まるのかワクワクしながら迎えた入学式でした。この年の学年目標は「石垣」。初めての小中一貫校で、初代九年生が多くの試行錯誤を繰り返しながら児童生徒会を創り、運営していく。きつとわからないことだらけで、今までと同じでは通用しないことも多いだろう。その大



変さを少しでも軽減するために、真つ先に協力するのがこの学年。九年生が創る児童生徒会は、城に例えるなら「本丸」にあたる。その本丸を基礎から支える土台「石垣」になろうという思いが込められた学年目標でした。この年の宿泊学習は唐松岳登山。「一人の登山だったから辛い状況でも、集団登山であれば乗り切れる。全員が登頂するために、学年の団結を大切にしよう。」という思いを大切にしました。当日は見事な快晴で、ご来光もバッチリ見ることができました。標高の高いところでの直射日光による暑さ、山頂の厳しい寒さ、きつい登りを淡々と歩くつらさ。様々な苦しみを団結



力と持ち前の明るさでのりきり、また一つ成長しました。その成長を生かしつつ迎えた児童生徒会の引き継ぎ。見事な第一回秋桜祭を創り上げた九年生から「本気で取り組む」ことを教わり、それを受け継ぎながらよりよいものを創ろうと頑張りました。大切にすることは、「役員だけが頑張る児童生徒会ではなく、学年全員が役員のもりで臨む児童生徒会。学年全員で創りあげる。」ことでした。その一端が小中一貫校初の「九年生を送る会」に向けての準備や当日に見ることができました。朝読書前に集まって取り組んだコサージュ作り、九年生に感謝の気持ちと今後の意気込みを伝

平成25年度

現九年生にとって義務教育最後の年を迎えました。入学時からどんな時も向上心をもって取り組み、常に最高の状態を目指してきたこの学年が、最後の一年間の学年目標として掲げたものは、『神走』でした。信濃小中学校の二代目卒業生として、これから信濃小中学校を築いていく全ての後輩たちの「伝説」の存在になること。「神」という存在は、何事においても最高値であり、手が届かない存在。それにプラスして、どの学年よりも先を走り、礎を築く存在。この三つを合わせて『神走』という学年目標にしました。そこからが大変でした。まずは四月の修学旅行。伝説の修学旅行って何だろうか。一人ひとりが考えた結果、学年全員69名で行くことが最低条件だと考え、全員が仲間を声をかけ、一人も欠席することなく当日



を迎えることができました。次に、全員が楽しむ修学旅行を考えました。楽しんでる人だけが楽しんでもただの旅行。69名全員が「楽しかった。」「行って良かった。」と思える修学旅行にすることを考えました。バスの中では全員で歌を歌い、奈良・京都ではみんなで楽しみながら学びました。そして、修学旅行で最高の学習をしていくこと。学習する時は本気で学ぶ。修学旅行中、バスガイドさんやタクシーの運転手さんが説明をしてくださる時は一人ひとりが鋭い目つきで真剣に聴いていました。耳だけでなく、目や心を使って。また、教えてくださる人、泊めてくださる旅館にも感謝



を形にすることも学びの一つだと考え、常に清潔に、常に感謝の思いをもって行動することができました。そのたびに聞こえてきたのは、「初めてです。こんなに真剣に学び、こんなに気持ち良く仕事（関わり）をさせて頂いたのは：信濃小中学校の生徒と出会えて良かった。」という声でした。九年生が今まで培い、九年生の全てにつながる心が、この言葉に表されていると思いました。時は流れ、児童生徒会の集大成となる文化祭の時期が来ました。秋桜祭も九年生が目指すのは「伝説」。今年度の児童生徒会は、どの活動も全校が笑顔になることを考えてきました。その

集大成だから、秋桜祭のテーマも「咲く笑え！それが全ての原点」であり、全校が笑顔になることを最大の課題としました。そこで考えたことは、一年生から九年生まで全員が学べる、心から笑い会える感動の場面を築くことでした。小学生も中学生もいるという難点を、利点に変えようとした。こうしてできあがった秋桜祭は、開祭式から小学生でも楽しめる、高学年になれば楽しみながら考える、学べる場面をとりいれた活動がたくさん見られました。その結果、生まれたのが全校の笑顔だけでなく、それを越えた感動の涙でした。常に最高を追い求め、チャレンジしてきた九年生。この中学三年間で学んだ「最高のものを目指し、努力をすれば、想像した以上のことを成し遂げることができる。」ということ。この経験を胸に、信濃小中学校二代目としての誇りをもち、ここを巣立った後の長い人生も「常に最高」を目指し、向上心をもって生活していった下



さい。「この学校しかできないことがある。その可能性は無限だが、成し遂げることが困難である。でも、その困難にあえて立ち向かう志こそ、我が信濃小中学校の誇りである。」そんな思いを感じながら歩んできた九年生の姿が「伝説」として語り継がれ、後輩たちが最高の学び舎を築いてくれることを願っています。後輩や保護者の方、地域の方、先生方、お世話になった全ての方々、ありがとうございました。今後の活躍を期待していただきます。